

国産バットへつなげるアオダモの森林づくり!

日高南部森林管理署 主任森林整備官 吉田 栄
森林整備官 佐藤 昌弘

課題を取り上げた背景

日高南部森林管理署が所在する日高地方は野球用アオダモバット材の産地です。当署においては、安定的にバット材供給を行うためアオダモの植栽を行っています。しかし、日高地方においてもエゾシカ頭数が増加しており、管内のアオダモ植栽地も昭和50年代に植栽をした箇所が樹皮剥ぎ等の被害を受け、バット用材としての材質が損なわれる可能性が出てきました。アオダモは、日高地方の貴重な森林資源です。将来バット材として安定供給できるようにエゾシカ対策とアオダモ用材育成の両立を図るために本題を取り上げました。

研究の内容・成果

◎エゾシカの被害状況について調査

シカ防護柵設置箇所については、被害はありませんでしたが、シカ防護柵未設置箇所では90%のアオダモに被害がありました。シカの防護柵は有効に機能を発揮しています。未設置箇所のアオダモは樹皮被害によりバット材として不適または将来材質に影響すると考えられるものが約70%となっており対策が必要です。

◎ヘキサチューブ及び網状ネット取付け箇所の観察

ヘキサチューブ・網状ネット未設置箇所では下刈の際に切損が見られましたが、設置箇所では切損は見られず、保育の上でも有効であることがわかりました。

しかし、網状ネットの場合は頂芽が編み目から飛び出し写真のようなコブが発生しており、巡視の際に頂芽が編み目から飛び出していないか注意する必要があります。

今後の展開

シカ防護柵未設置の箇所については防護柵もしくは防護ネット類の設置を検討し、被害木の回復状況の経過を行っていきます。

また、保育上有効であったヘキサチューブについては未設置箇所との上長生長量及び通直性に与える影響の違い等の調査を実施し、今後の施業へ反映させていきたいと思っています。



コブが発生したアオダモ

～メモ～